Access

1. 電車利用の場合

上越･北陸新幹線本庄早稲田駅より徒歩約13分。
高崎線本庄駅より「スクールバス」またはタクシーで約13分。
寄居駅（JR、東武鉄道、秩父鉄道）より
「スクールバス」またはタクシーで約30分。

2. 自動車利用の場合

関越自動車道「本庄児玉インター」より
車で約 10 分。



Information

学院説明会及び生徒寮見学会

第1回 **7月 13日(土)**

第2回 **9月 28日(土)**

※詳細は本学院WEBサイトでお知らせします。

稲稜祭（文化祭）

11月2日(土)･3日(日)

※一般公開などの詳細は本学院WEBサイトでお知らせします。

早稲田大学本庄高等学院

〒367-0032　埼玉県本庄市栗崎 239-3
TEL:0495-21-2400（代）　FAX:0495-24-4065
https:///www.waseda.jp/school/honjo
E-mail:honjosh@list.waseda.jp

※掲載情報は2024年6月1日現在のものです。最新の情報は本学院WEBサイトでご確認ください。

通学地域別人数（人）

●生徒寮	206	●東京都	214
		練馬区	19
		世田谷区	18
●埼玉県	405	江東区	17
さいたま市	128	杉並区	11
本庄市	46	大田区	9
上尾市	28	港区	8
熊谷市	20	板橋区	8
鴻巣市	18	品川区	8
深谷市	17	武蔵野市	8
川口市	11	文京区	8
児玉郡	11	目黒区	8
久喜市	9	新宿区	7
桶川市	9	中央区	7
富士見市	7	江戸川区	6
川越市	7	中野区	6
志木市	7	三鷹市	5
比企郡	6	足立区	5
東松山市	6	台東区	5
ふじみ野市	6	北区	5
蕨市	5	荒川区	4
鶴ヶ島市	5	国分寺市	4
新座市	5	渋谷区	4
坂戸市	5	西東京市	4
和光市	4	東久留米市	4
所沢市	4	豊島区	4
戸田市	4	小平市	3
吉川市	4	稲城市	2
入間郡	3	狛江市	2
朝霞市	3	小金井市	2
秩父市	3	千代田区	2
秩父郡	3	多摩市	2
春日部市	3	町田市	2
越谷市	3	調布市	2
三郷市	2	あきる野市	1
羽生市	2	葛飾区	1
北本市	1	国立市	1
北足立郡	1	八王子市	1
北葛飾郡	1	立川市	1
白岡市	1		
入間市	1		
日高市	1	●神奈川県	38
草加市	1	横浜市	22
行田市	1	川崎市	13
幸手市	1	鎌倉市	2
狭山市	1	大和市	1
加須市	1		
		●千葉県	43
●群馬県	57	浦安市	14
高崎市	24	柏市	7
前橋市	21	船橋市	4
太田市	4	流山市	4
富岡市	3	市川市	3
伊勢崎市	1	千葉市	3
甘楽郡	1	習志野市	2
渋川市	1	松戸市	2
沼田市	1	野田市	2
藤岡市	1	我孫子市	1
		成田市	1
		●栃木県	7
		宇都宮市	7
		●茨城県	3
		つくば市	2
		土浦市	1
		●新潟県	1
		長岡市	1
		●長野県	1
		北佐久郡	1

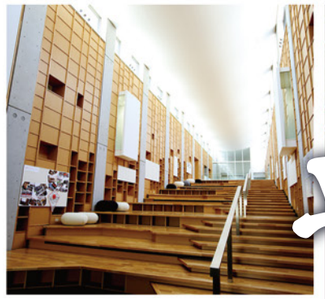
●制作協力
題字：井上 桜依良［3年］











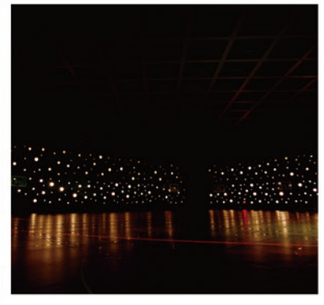
















早稲田大学は創立１００周年を記念して、日本国内のみならず世界各国から、
将来早稲田大学をめざす意欲的な生徒を迎えることを期して、
早稲田大学本庄高等学院を１９８２年４月に埼玉県本庄市に男子校として創立した。
その後、２００７年４月に男女共学となり、２０１２年４月に現在の校舎へ移転した。
本庄高等学院の教育の目的は、本庄キャンパスの豊かな自然環境で逞しい心身を養い、
自由と自立の校風のなか、「自ら学び、自ら問う」という教育方針のもと、
「進取の精神」に満ちた活力ある生徒を育てることである。
高等学院という名は、戦前の早稲田大学予科である「第一・第二高等学院」に由来する。
早稲田大学予科は早稲田大学の各学部に進学するための予備教育の学校であり、
ここで学んだ学生は、無試験で早稲田大学に進学した。
本庄高等学院では、生徒を「学院生」と呼ぶが、この呼称は早稲田大学の一員である矜持を表している。

■早稲田大学本庄高等学院 沿革

1882（明治15）年　東京専門学校創立
1902（明治35）年　早稲田大学と改称
1903（明治36）年　早慶野球戦開始
1907（明治40）年　校歌制定
1920（大正　9）年　「大学令」による大学となる
　旧制早稲田大学早稲田高等学院設置
1927（昭和　2）年　大隈講堂落成
1980（昭和55）年　早稲田大学評議員会で
　本庄高等学院の設置決定
1982（昭和57）年　早稲田大学本庄高等学院開校
　第１回入学式
1984（昭和59）年　第１回訪中修学旅行
1985（昭和60）年　第１回卒業式
1991（平成　3）年　創立10周年記念式典
2002（平成14）年　文部科学省よりスーパーサイエンス
　ハイスクール（SSH）に指定される
2007（平成19）年　定員を80名増やし、男女共学となる
　創立25周年記念式典
2012（平成24）年　新校舎・生徒寮竣工
　生徒寮を「早苗寮」と命名
　創立30周年記念式典
2015（平成27）年　新図書室／新音楽室／稲穂ホール竣工
　文部科学省よりスーパーグローバル
　ハイスクール（SGH）に指定される
2018（平成30）年　女子寮竣工「梓寮」と命名
2020（令和　2）年　体育館竣工

恋をしましょう！



早稲田大学本庄高等学院
学院長
半田 亨

こい【恋】「特定の人を強く慕うこと。切なくなるほど好きになること。また、その気持ち。」（大修館書店、明鏡国語辞典第三版）

この小冊子を手に取る方のほとんどは、受験生かその保護者の方だと推測します。そのため、ここでは、受験生に向けて、というスタンスで文章を書きます。

皆さんは今、「恋」をしていますか?「恋」をしたことがありますか?皆さんより長い私の人生経験からしても、恋を経験することは人生においてとても重要なことであり、人生の生きがいを作り、生活を楽しいものにしてくれます。とはいえ、その過程は楽しいことだけではなく、時には切なく身を焦がし、時には嫉妬心を覚え、時には自分の言動に後悔を覚えます。そして、その多くは破局や別れによって継続できません。と、書きましたがたぶん、必ずしも個人という「特定の人」だけではなく、ミュージシャンやスポーツチーム、ペット、あるいは宝石やブランド品、車、楽器、美術品などの物品、思想・音楽・雰囲気といった無形・形而上のものまで、「恋」の対象は多様です。しかし、その対象が何であれ、恋の思いを深く抱いたという経験は人格を大きく成長させます。

ほとんどの場合、恋のきっかけはごく些細なことです。相手が個人であれば、席が隣だった、落としたハンカチを拾ってくれた、励ましの言葉をかけてくれた、試験の時シャーペンの芯をくれた、……程度のことです。そこから、ちょっとずつ会話が始まります。なんとなく気になる存在になり、会話が楽しいから、会えることが楽しみになります。他の人とはちょっと違う存在になっていきます。心がときめく存在になります。場合によっては、そのような通常のプロセスを飛び越して、困っているところを助けてくれたり、強烈なリーダーシップや華麗なプレーを見せられて、一瞬で恋に落ちることもあるかもしれません。

受験する学校と皆さんの関係も同じです。知るきっかけは、塾や学校の先生が教えてくれた、同じ中学の先輩が通っている、偏差値的に合っているなど些細なことでしょう。自分で調べてみたり、先生や知人に情報を聞いて、さらに興味を持つかもしれません。興味を抱いたら、会ってみましょう。遠くから見るだけで憧れていた人に実際会ってみたら、話題が下品でがっかりした、センスがなくてがっかりした、ということは往々にしてあります。ぜひ、一度その学校を文化祭や学校説明会の機会に、訪問してみてください。実際に会って、その雰囲気を感じ取ってください。教室に入ってみたら「なんだ、この張り詰めた空気は?」「なごやかな雰囲気で安心した」ということは皆さん、どこかで経験していると思います。人間には、「空気」を感じ取る能力が備わっています。感じ取った印象を大事にしてください。

「恋」の予感を感じたら、もっとその人のことを知りたくなります。他の人は知らないが、自分だけが知っている秘密を持ちたくなります。雰囲気が自分に合っていると感じたら、生徒や先生にいろいろ質問してみてください。皆さんが抱いた学校への恋心が、受験勉強のモチベーションやエネルギーとなります。逆に、雰囲気が自分に合わない、恋の予感を感じない学校は、例え偏差値的に合っていても、ひょっとしたら入学後ミスマッチにつながるかもしれません。もちろん、自分の好きな相手だと信じていた人が、実は大したことのない人だった、逆に合わないと思っていたが、付き合ってみたらいい人だった、ということは人間関係で往々にしてあり得ます。学校も、もちろん同じです。しかし、高校選択は人生一度のこと、またその後の人生の方向を左右する大きなポイントです。入学後に人間のように「振る」ということは、簡単にはできません。それであれば、今のうちにできる限り知る努力をするべきです。

皆さん、ぜひ一度、受験前に本学院にお越しください。私は、「素晴らしい学校だから、皆さんぜひ受験してください」とここで訴えるつもりはありません。本学院は残念ながら地理的・交通的な面で便利だとは言えず、通学しにくい場所にあります。また、自由と多様性は本学院の特徴を一言で言い表す言葉ですが、それが自分に合わないという場合もあります。先生が「これをしなさい」「これが君にはおすすめ」とあれこれ与えることもありません。多様な文化的・言語的バックボーンを持つ生徒の間で、自分なりに高校生活を作り上げるクリエィティビティが求められます。しかしながら、普通の高校では考えられない広大なキャンパスの中、グラウンドスポーツはすべて融通し合うことなく、のびのびと活動することができます。四季の移ろいを目と肌で感じながら、豊かな感受性を養うことができます。質の高い授業で素養を養いながら、多様なプログラムで他校では得難い経験をすることができます。だからこそ、本学院は学校を一度訪問して受験校の候補とするかどうかを吟味することが他校よりも求められます。

私は、本学院が皆さんにとって、「恋」を感じるだけの価値がある学校でありたいと思っています。恋の相手は必ずしもイケメンであったり、歌やスポーツがうまい人であるわけではありません。目立たなくても優しかったり、振る舞いの中に思いやりがあったり、話していると居心地が良かったり、そんなさりげない「魅力」が恋を発展させます。華やかにはなれないが、付き合ってみるとさりげない魅力が多い、そんな学校でありたいと思っていますし、ひょっとしたらいくつか本学院なりのさりげない魅力があるのかもしれません。

ぜひ、本学院に恋をしてください。そして、入学後に恋に落ちてください。

早稲田大学校歌

坪内逍遙 校閲　相馬御風 作詞　東儀鉄笛 作曲

都の西北　早稲田の森に
聳ゆる甍は　われらが母校
われらが日ごろの　抱負を知るや
進取の精神　学の独立
現世を忘れぬ　久遠の理想
かがやくわれらが　行手を見よや
わせだ　わせだ　わせだ　わせだ
わせだ　わせだ　わせだ

東西古今の　文化のうしほ
一つに渦巻く　大島国の
大なる使命を　担ひて立てる
われらが行手は　窮り知らず
やがても久遠の　理想の影は
あまねく天下に　輝き布かん
わせだ　わせだ　わせだ　わせだ
わせだ　わせだ　わせだ

あれ見よかしこの　常磐の森は
心のふるさと　われらが母校
集り散じて　人は変れど
仰ぐは同じき　理想の光
いざ声そろへて　空もとどろに
われらが母校の　名をばたたへん
わせだ　わせだ　わせだ　わせだ
わせだ　わせだ　わせだ

本庄高等学院から グローバルリーダーとして世界へ



早稲田大学
総長
田中 愛治

現在の高等学校の教育が、大学入試に合格することが自己目的化され、偏差値教育に偏っているという指摘は、多くの識者から指摘されてきました。その背景には、第2次世界大戦後の日本の教育においては、「答えのある問題に早く正解を出せる人材が有能な人材である」という認識があったのです。しかし、今日の世界では,新型コロナウイルス感染症によるパンデミックを例にとっても明らかなように、人類が直面している問題はほとんど答えのない問題、もしくは正解が1つではない問題ばかりです。

幸い、早稲田大学本庄高等学院においては、原則としてすべての卒業生が早稲田大学に進学することが認められていますので、厳しい大学入試を突破するための、受験技術優先の学習、断片的な知識をひたすら詰め込むといった学習に時間を費やすことなく、自由で伸び伸びとした環境の中で、総合的な理解力、個性的な判断力を涵養することができます。

その意味では、本来高校生の時に育むべき答えのない問題に挑戦する「たくましい知性」を、本庄高等学院では育むことが出来るのです。言いかえれば、多面的・総合的な力の育成が日本の多くの高校で軽視されている今日に、そのような本質的な教育が本庄高等学院では可能になっています。

また、本庄高等学院では、生涯にわたって学習する基盤が培われるよう、義務教育の基礎の上に、主体的に学ぶ習慣と幅広い教養を身に付け、一人一人の個性の伸長を図ることが可能です。そのために、体験活動等も充実し、社会の発展に寄与する志や責任感を養うことが可能となっています。

本庄高等学院では、大久保山と呼ばれる広大な本庄キャンパスの緑豊かな自然環境を活用することができ、近隣自治体等の協力も得て、さまざまな体験型の学習プログラムを実施しており、自然や社会に対するみずみずしい感性を育成することもできます。

また、本庄高等学院には、国内外から、さまざまなバックグラウンド、異なる価値観をもった生徒たちが集まっており、自分とは異なるバックグランドや価値観を持つ友人を受け入れる「しなやかな感性」を育むことができます。教室で、部活動で、そしてまた早苗寮・梓寮での共同生活を通じて、「しなやかな感性」を持つ豊かな人間性を育くむことができるのです。

と同時に、グローバル化と少子高齢化が急速に進展する中で、日本が将来にわたって国際社会で信頼され、存在感を発揮しつつ発展していくためには、世界を舞台に挑戦する主体性と創造性、豊かな人間性を持った多様な人材が社会の様々な分野で活躍することが必要であります。そのためには、教育を通じて、夢を強い志に高め、それを実現に導く情熱や力、社会に貢献し責任を果たす使命感、幅広い教養、語学力、コミュニケーション能力、課題発見・探究・解決能力、リーダーシップ、豊かな感性などを培うことが重要であると考えています。

本庄高等学院では、2002年度より15年間にわたるスーパーサイエンスハイスクール事業と2015年度より5年間にわたるスーパーグローバルハイスクール事業において、生徒主導のプロジェクト型探究活動を国内外で継続的に実践して参りました。

早稲田大学は、自由で独創的な研究を通じて世界の学問に裨益すること（学問の独立）、学理を学理として究めるとともに、これを実際に応用する道を開くことで社会の発展に寄与すること（学問の活用）、個性を尊重し、心身を発達させるとともに、「一身一家一国のためのみならず、進んで世界に貢献する抱負が無くてはならぬ」（模範国民の造就）という創立者・大隈重信候が唱えた「早稲田大学教旨」を建学の理念として142年の歴史を積み重ね、世界中の至る所で、また、ありとあらゆる分野で大いに活躍する多様な卒業生を送り出し、社会から高い評価を受けて参りました。

高校進学を目指している皆さんが、早稲田大学本庄高等学院の優れた学習環境と「『自ら学び、自ら問う』ことを学習姿勢の基本とする」という教育方針をご理解いただき、本庄高等学院で充実した3年間を過ごし、卒業後は早稲田大学に進学し、やがては早稲田大学の建学の精神を体現するグローバルリーダーとして世界の平和と人類の幸福の実現のために大いに貢献すべく、本学院に進学してくださることを期待しています。

早稲田大学本庄高等学院 概況

●名　　称／早稲田大学本庄高等学院
●学 院 長／半田亨
●所 在 地／埼玉県本庄市栗崎239-3
●課　　程／全日制課程　普通科
●募集定員／
　第１学年 男女320名
　一般入試：男子約100名、女子約70名
　帰 国 生：男子約15名、女子約10名
　α 選 抜：男子約45名、女子約30名
　Ｉ 選 抜：男女約20名
●教 職 員／専任教諭:43名 職員:8名
※2026年度入学以降の募集定員については、P22をご参照ください。

早稲田大学教旨

早稲田大学は学問の独立を全うし 学問の活用を効し
模範国民を造就するを以て建学の本旨と為す
早稲田大学は学問の独立を本旨と為すを以て
之が自由討究を主とし
常に独創の研鑽に力め
以て世界の学問に裨補せん事を期す
早稲田大学は学問の活用を本旨と為すを以て
学理を学理として研究すると共に
之を実際に応用するの道を講じ
以て時世の進運に資せん事を期す
早稲田大学は模範国民の造就を本旨と為すを以て
個性を尊重し 身家を発達し 国家社会を利済し
併せて広く世界に活動す可き人格を養成せん事を期す

早稲田大学の概要

早稲田大学は、1882 年、自由民権運動が激しさを増すなか、“ 学問の独立 ” を標榜する大隈重信によって、「東京専門学校」として創設されました。それは、国家が、必要とする人材の養成機関である官学に対し、在野的な「自由な精神」あふれる人間の育成をめざすものでした。「早稲田大学」と名称を変えた今も、進取の精神と東西文明の調和に基づき、情報化社会や国際社会の動向をみつめ、時代に先駆ける教育を行っています。140 年余の歴史と伝統を誇る早稲田大学では、学問のみならず、人間を学び、生き方を学び、自由を学ぶことができます。この早稲田精神を身につけて巣立った学生たちは、産業、法曹、文化、芸術など社会のあらゆるフィールドで活躍しています。

■われらが日ごろの　抱負を知るや　進取の精神　学の独立

教育課程

教育方針

■断片的な知識の集積ではない、総合的な理解力、個性的な判断力を涵養する。
■地域とさまざまなレベルでの交流を通じて、人間・社会・自然に対するみずみずしい感性を育成する。
■知識と実行力（気力と体力）との結合を期する。
■「自ら学び、自ら問う」ことを学習姿勢の基本とする。

●日課表

第1時限	9:10～10:00	第4時限	12:20～13:10
第2時限	10:10～11:00	ランチタイム	
コーヒーブレイク		第5時限	13:50～14:40
第3時限	11:20～12:10	第6時限	14:50～15:40

※完全下校時刻18:40　※水曜日・土曜日は第4時限で終了

教育課程

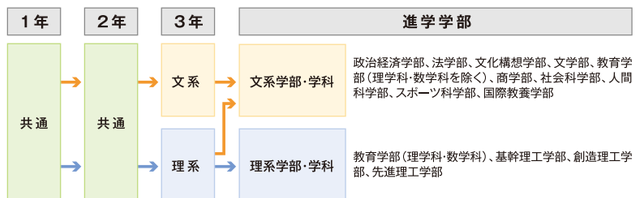
教科	1年	2年	3年	
国語	現代の国語② 言語文化②	文学国語② 古典探究②	論理国語③ 古典探究②	
地理歴史	歴史総合②	世界史探究② 日本史探究②	地理総合②	
公民	公共②	政治・経済②		
数学	数学I③ 数学A②	数学II③ 数学B③	文系	数学III②
			理系	数学III③ 数学C③
理科	化学基礎② 生物基礎②	物理基礎②	文・理	地学基礎②
			理系	化学③ 物理・生物③※2
保健体育	体育② 保健①	体育③ 保健①	体育②	
芸術	音楽I・美術I②※1			
外国語	英語コミュニケーションI③ 論理・表現I②	英語コミュニケーションII④ 論理・表現II②	英語コミュニケーションIII④ 論理・表現III②	
家庭	家庭基礎②			
情報	情報I②			
総合		総合的な探究の時間（大久保山学）②		
理数		理数探究基礎（物理）①		
学校設定			自由選択科目 文系⑫ 理系②	
特別活動	HR①	HR①	HR①	
単位合計	計32単位	計32単位	計32単位	

※1.音楽I、美術Iから1科目選択　※2.物理、生物から1科目選択、生物選択の場合は進学学部・学科に制限あり

2年次総合的な探究の時間 ※2024年度実績

・大久保山から生まれるアート
・本庄高等学院の「いま・むかし・みらい」を考え、プロモーションする
・身の周りの風景や土地利用の成り立ちについて考えよう
・理論と実践で学ぶ音楽史
・大久保山から環境・エネルギー政策を考える
・大久保山での数理探究
・自然が教えてくれること
・データ分析の基本

文・理選択



卒業論文

3年間の学習の集大成として、2年次からすべての学院生が卒業論文に取り組みます。これは「自ら学び、自ら問う」という本学院の教育方針を具体化したものです。担当教員の指導を受けながら、調査・文献収集をし、自分の定めたテーマについて1,400字×15枚以上の論文にまとめます。この過程を通して、学院生たちは問題意識を持つこととその解決方法、学術的な調査の方法、客観的な説得力を持つ文章の書き方、著作権への配慮などを学び取ります。

●卒業論文タイトル例

・ディズニー/ピクサー作品における非人間的存在表象の推移
・なぜラマダーンの断食は廃れないのか
・ニオイを発生させる物質とそれに対応する消臭剤
・スウェーデン児童文学「長くつ下のピッピ」の英語・日本語訳比較研究
・製品重量の好ましさが製品パッケージにおける製品画像の上下配置に与える影響
・FFTを用いた管楽器の音の数理的な再現とその評価
・日本人アスリートに対するプラントベースダイエットの提案
・ボピュラー音楽の心理的効果と精神障害の解消　―ビートルズ音楽の分析を踏まえて―

3年次自由選択科目 ※2025年度予定

選択科目の内容は、学部・学科の専門への接続をはかるものや教科横断的なものなど多岐にわたります。

2025年度開講予定の一部科目
早稲田大学と文学、平家物語を読む、地理学演習、日本近代史I・II、政治学入門、法学入門、代数学入門、農業と環境、スポーツサイエンス、食文化、多変量データ分析入門、など

留学

海外への留学を希望する本学院の生徒は、留学制度を利用することができます。留学することにより、多様な異文化体験を通して複眼的思考を養い、帰国後、日常生活および学院生活においてより一層の活躍をすることが期待されます。

①留学の定義
・外国の高等学校またはこれに相当する後期中等教育機関に在学すること
・1学校年度の間（10ヶ月から12ヶ月）在学すること。
②留学の種類
・第1種留学:本庄高等学院を4年で卒業のパターン。
留学に出た学年は休学扱いとなり、帰国後当該学年をやり直します。
・第2種留学:本庄高等学院を3年で卒業のパターン。
留学期間を本庄高等学院在学年数に算入し3年間で卒業・学部進学ができます。
但し、第2種留学には成績などの条件があります。
③留学回数
・在学中、第1種か第2種の1回限りです。
④留学先で修得した単位の認定について
第2種留学において、留学先の高等学校等での履修を本学院における履修とみなし、32単位の範囲内で単位の修得を一括認定します。
2019年より本学院はニュージーランドと留学協定を締結しています。この他、留学に関する詳細は、本庄高等学院WEBサイトにある、学院生活のしおりをご参照ください。

学術交流校

中国:北京大学附属中学、蘇州中学
韓国:安養外国語高等学校、Hana Academy Seoul
台湾:市立台中第一高級中学
シンガポール:National Junior College
タイ:Mahidol Wittayanusorn School

自ら学び　自ら問う

教員からのメッセージ

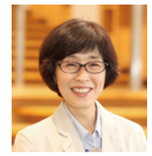


たくましい知性への第一歩

地歴科（世界史）
三枝 亮也

「歴史」と聞くと、多くの人が暗記科目、というイメージを持つのではないでしょうか。
もしかしたら、勉強しても将来役に立たないと思っている人もいるかもしれません。
しかし歴史はもちろんのこと、様々な分野への教養がなければ、どんなに外国語が堪能でも、素晴らしいプレゼンスキルを持っていても、その意見や主張は説得力を持ちません。ではどうすればそのような教養を身につけられるでしょうか。それは主体的に学び、その知識を使っていくことだと思います。
本庄高等学院には、皆さんが主体的に学べるような環境が整っています。さらに国際交流プログラムや卒業論文と、学んできた知識を存分に活かす舞台がたくさん用意されています。そのような場を通して学んだ知識は、学部進学後のみならず、一生皆さんの役に立つものとなっていくでしょう。
我々はいま「答えのない問題」に多く直面していると言われますが、まずある程度「答えのある問題」や先人が出した答えを知らなくては、そのような問題を考え、答えることはできません。本庄高等学院の自由な環境の中で、自分なりの答えを見つけるための「たくましい知性」を身につける第一歩を一緒に踏みだしましょう!

【特色のある授業】
○より内容の理解を深めるために、豊富な映像教材を用いて授業が行われます。
○教科書だけでなく、社会、歴史についての一般書を読み、書かれている内容やその内容の背景について吟味しながら学ぶ授業があります。
○各地域の歴史に特化した授業があります。高校の教科書の枠組みを越えた内容も扱いながら、歴史を様々な角度から見たり、歴史から改めて現代を考えたりしてもらいます。



“Maybe I can help you.”

英語科
望月 眞帆

タイトルにしたこの表現は私がフランスのある町で聞いた英語です。国際線の乗り継ぎのフライトが遅れて一泊することになり、空港近くの静かな町に案内されました。夕食に出てホテルに戻ろうとした帰り道、立ち止まってフランス語の地図と標識を「解読」していた時に、通りかかった地元の人がこのように声をかけてくれました。フランスで聞いたシンプルで温かいこの英語。それ以来自分は縁あって学んでいる英語を使って他人のためにどんなアクションを取れるかと、折々に考えるようになりました。
使える言語の種類が増えると情報源や人間関係、さらに楽しみも広がります。英語の授業では教科書も大いに使いますが、英語の書籍やネット上の英語のコンテンツも活用して言語活動の幅を広げています。授業に加えて種々の国際交流プログラムに参加すれば実体験からも学べます。外部英語試験のスコアや習熟度の違いはあっても、それぞれが英語の使用者として、自己表現とやりとりの経験を積んでいきましょう。
そしてある日、支援が要りそうな人を目にしたら“Maybe I can help you.”とためらわず言葉をかけられる勢いを、自分の中に育てていってほしいと願っています。

【特色のある授業】
○英語のプレゼンテーションはどの学年でも経験します。
○「4技能」および語彙、発音、文法をまんべんなく学習します。英語多読活動も取り入れています。
○表現と発表を重視する科目は習熟度別グループで行います。
○3年生選択科目は大学初年度レベルのものもあります。英語関連や英語圏文化のテーマであれば卒論を英語で書くこともできます。



数学を楽しもう

数学科
太田 洋平

皆さんが数学を楽しいと感じる理由は何ですか?答えは人それぞれでしょうが、私にとっては「当たり前だと思えることが増えていく」ことがその理由です。
数学の本を読んでいると、定義を見ただけでは具体的なイメージが湧きにくい概念に出合うことがあります。しかし、具体例を考えることや、計算をすることで、その概念に対する直観が育っていき、段々と「視えてくる」ことがあります。概念が「視える」ようになると、理論の見通しがよくなり、様々なことが当たり前に感じるようになります。
自然数は数を数えることを抽象化した概念ですが、多くの方にとって自然数は身近な概念だと思います。一見難しそうな数学の概念もトレーニングをすることで、自然数と同様に身近な概念となっていきます。
本庄高等学院の授業では、ただ問題を解くだけでなく、数学のストーリー性を重視しています。枝葉の部分を忘れてしまっても、自ら手を動かして内容を再構成できる、そういった能力を身に付けてもらいたいと思っています。数学科には、代数・幾何・解析・数理物理など様々なバックボーンを持った教員が在籍しています。授業や課外講義を通じて、皆さんの数学的世界を広げる手助けをしていきたいと思います。私たちと一緒に楽しい数学ライフを送ってみませんか?

【特色のある授業】
○3年次必修科目として理系は解析学と線形代数学の基礎を学び、文系は「数学III」の授業で経済学への応用も意識した実践的な内容を学びます。また、3年次選択科目では代数・幾何・解析の大学レベルの科目を開講しています。
○Moodleシステムを利用した事前学習や、オンラインで学べるコンテ　ンツを積極的に活用しています。
○卒論指導でのセミナーや、課外講義での体験型学習などのプログラムも用意してあります。



どう生きるか、語り合おう

家庭科
棚橋 知之

1966年の干支は“丙午（ひのえうま）”でした。丙午とは60年に一度巡ってくる干支の一つです。当時、丙午の年に出産するのは縁起が良くないという「噂」が広がりました。その結果、合計特殊出生率が大きく下がりました。科学的根拠はない「噂」に影響を受け、出産を避けた人が多数いらっしゃったのです。
あれから60年。2026年の干支は丙午です。丙午は、その「噂」と共に私たちの生活の中へやって来ます。まずは、丙午の「噂」が誕生した背景と過去に影響を受けた人々の状況・心の中を学びましょう。
そして、語り合いましょう。
君は「丙午」に影響を受けて出産を避けるタイプか、影響を受けずに出産するタイプか、いずれに当てはまるでしょうか。どのような価値観で、どのように生きていきたいのか、クラスメイトと語り合いましょう。人生にパートナーの存在を望むのか望まないのか、出産を望むのか望まないのか。君は人生をどう生きようとしているのか……。
このように、家庭科では皆さんの生き方に影響を与えそうなものを教材として扱います。
次々に登場する「人生に影響を与えそうなモノ」たち……、それらがどんなモノで、どんな仕組みになっているのか学び、語り合いましょう。

【特色のある授業】
○自分の感想・考えをまとめ、発表する機会が沢山あります。
○生活の様々な場面には必ず人がいます。その人を学ぶために豊富な映像教材を用います。
○学んだ内容を追体験する教材・実習があります。
○3年次選択授業では年間約15回、調理実習を実施します。

Waseda University Honjo Senior High School

■現世を忘れぬ　久遠の理想　かがやくわれらが　行手を見よや

高大一貫教育

早稲田大学との一貫教育を具体化したものとして、各種の課外講義やセミナーがあります。早稲田大学の教員、専門家・卒業生らの講義を通じて、学問研究と職業世界の醍醐味に触れ、学部進学への意欲・関心と将来への展望を形成していきます。

早稲田大学に進学

卒業基準を満たした生徒は全員早稲田大学に進学できます。
進学する学部は、生徒本人の希望をふまえ、3年間の成績と卒業論文などを参考に決定されます。

●早稲田大学学部進学データ（2024 年春）　**総数 323 人**

スポーツ科学部1人
人間科学部1人

政治経済学部	法学部	文化構想学部	文学部	教育学部	商学部	基幹理工学部	創造理工学部	先進理工学部	社会科学部	国際教養学部
73人	44人	22人	16人	28人	35人	26人	26人	18人	20人	13人

他大学への推薦進学

日本医科大学　2人

日本医科大学への推薦入学制度

●日本医科大学進学

早稲田大学本庄高等学院と日本医科大学は、相互の教育分野に係る連携・交流を通じて、学院生の進路に対する意識や学習意欲を高めるとともに、大学教育・高校教育の充実、活性化を図ることを目的として、協定を結びました。この一環として、本庄高等学院から2名の生徒を日本医科大学学校型選抜に推薦できることになりました。

本制度は、本庄高等学院独自の選考と、日本医科大学独自の選考との2段階となっています。



先輩からのメッセージ



推薦入学

2023年3月卒業
日本医科大学医学部
医学科3年

北原 辰徳

本学院は受験勉強にとらわれることなく自分の将来を考えて、多方面・多分野への進路選択が可能な学校です。選択授業は種類が豊富であり、どの授業も大学同様に専門的で興味深く、幅広い知識を得ることができます。その上で自分の将来を見据えて進路を選択ができる素晴らしい環境が整っています。授業の内容を深く理解すること、更にレポート作成や発表等の主体的な学びは、大学入学後の現在も大きく活かされています。また高校時代はソフトテニス部に所属し、毎日の練習に励み、関東大会出場を果たすことができました。現在もソフトテニス部に所属して、大好きなソフトテニスを続けています。

私の進路選択については、生物学に興味があり、そこへ本学院在学中の新型コロナウイルスの出現・感染拡大が重なったことで、大学では生物学や医学を学びたいと考えました。そして「病める人を助け、健康を守る」ことのできる「医師」を目指すため、日本医科大学へ進学する決意をしました。現在、日本医科大学では同じ志を持つ仲間、尊敬する先生方と共に日々勉学に励んでいます。

みなさんも本庄高等学院で、あなたの「将来挑戦したいこと」を探してみませんか。

●本庄高等学院から学部へ［学部選択・進路形成］

1年	2年	3年
課外講義（通年開催）	キャリアデザインウィーク（9月）	キャリアデザイン講座（年5回程度）
	学部説明会（6月～10月）	推薦学部決定（1月）
・進路の検討 ・卒業論文のテーマ決定		・選択科目 ・卒業論文執筆


学部説明会



学部生・大学院生からのメッセージ



学部進学

2021年3月卒業
早稲田大学 基幹理工学部
情報通信学科 4年

松本 和樹

本庄高等学院は、有意義な進路選択をしやすい魅力的な環境です。幅広い専門知識を持つ先生方は、授業や卒論を通じて学院生の好奇心に丁寧に答えてくださいます。また、他の生徒と協力しながら国際交流や研究活動をする機会も豊富です。このような環境で高校生活を送ることで、自分の興味や目標が明確になり、自分に合った学部・学科を見つけることができます。

私自身も、国際交流研究で英語の重要性を知り、また卒論での成果を学会で発表するなど、学院生時代に貴重な経験を積むことができました。現在は基幹理工学部・情報通信学科に進学し、卒論執筆の過程で得た知識を生かして音響信号処理の研究に励んでいます。

本庄高等学院での3年間を通じ、皆さん自身が没頭できる分野を見極め、充実した大学生活を送れることを願っています。



大学院進学

2019年3月卒業
早稲田大学 先進理工学研究科
生命医科学専攻 修士2年
早稲田大学本庄高等学院 非常勤講師

大島 桃子

大学院について、どのようなイメージを持っているでしょうか？皆さんは、遠い未来のことのように感じるかもしれませんが、今振り返ると、大学院での研究の入り口は、本庄高等学院での学びの中にあったように思います。私は、本庄高等学院での生物の授業をきっかけに、生物の生存戦略の面白さに惹かれ、『本庄キャンパスに生息するチゴユリの生存戦略』を学院卒業論文のテーマとし、1年以上かけて研究を行いました。面白いと思ったことを、主体的に深く探究できる環境である本庄高等学院。その経験を礎に、大学・大学院と『脳の神経細胞のメカニズム』をテーマに、先端生命医科学センター（TWIns）にて、現在日々研究に励んでいます。

本庄高等学院のカリキュラムは、大学・大学院での「学び」の基盤になるものです。皆さんも本庄高等学院で「学び」のスタートを切ってみませんか。

磨く知性　選び取る未来

キャリアデザイン講座（2023年度）

本学院 OB/OG 等の高校時代・大学時代・そして現在の仕事についての話に耳を傾け、進路設計とミスマッチのない学部選択に活かします。

	職業	タイトル
第１回	会社経営	起業について
第２回	総合エネルギー開発	資源・環境・エネルギーについて
第３回	放射線技師	放射線技師による解剖学の講義・実習
第４回	公認会計士	公認会計士について
第５回	国家公務員	外務省について
第６回	法曹	弁護士について

キャリアデザインウィーク

将来の進路を考えるための機会として、毎年９月にキャリアデザインウィークを開催しています。

部門	日程	分野	タイトル
進学の部	9/13（水）	政治経済学部	社会問題解決のための力：経済学で解く環境問題
		教育学部	地球・宇宙を「化学」する
		先進理工学部	最先端の素粒子実験
		スポーツ科学部	“ひとのつながりから見えるもの”心・怪我・遊び
		政治経済学部	メディアを量的に分析しよう～内容分析という手法のススメ
		人間科学部	栄養バランスでアンチエイジング
		国際教養学部	リベラルアーツ教育と天文学入門
	9/20（水）	文化構想学部	「世界文学」の定義とその読書のためのヒント
		基幹理工学部	未来の宇宙往還機と推進システム
		社会科学部	18 世紀の黒人奴隷貿易を人類史の中で考えてみる
		法学部	ふるさと納税をめぐる国と地方との関係
		文学部	ロシア・ウクライナ戦争と「文化」のナショナリティ
		商学部	データ分析 相関関係と因果関係
		創造理工学部	建築をとりまく仕事とデザイン ーEngineering WOOD の事例ー
就職の部	9/9（土）	外資系コンサルティングファーム	キャリアデザイン実例
		市社会福祉事業団	卒論は偉大だった！～自分の仕事への影響～
	9/16（土）	東京都職員	都庁の幅広いおしごと
		法律事務所	学部進学と法曹への進路について
		JICA	本当の“豊かさ”とは？私が国際協力の道を選んだワケ

特別講座「留学のススメ」

本学院生徒、保護者を対象に、早稲田大学国際部による留学説明会を ZOOM Webinar で開催し、120 名以上の生徒および保護者が参加しました。本学国際部国際課担当職員から、早稲田大学における留学制度の紹介、この一年間のコロナ禍での派遣留学の状況、本学の対応や、新たに実施されたオンラインプログラム等について説明を受けました。オンラインによる留学先授業の事前履修、オンライン国際交流や世界中の大学生とテーマスタディを共同受講する取り組みなど、このコロナ禍で発展した新しいカタチの国際交流・学びへの取り組みが紹介されました。また、本学と包括的協定を結ぶ Education New Zealand の担当者よりニュージーランドの国の事情、教育・留学等の制度について話をうかがいました。最後には、ニュージーランド（オークランドの高校）に留学中の本学系属高校生徒とオンラインで現地の様子の報告、質疑応答など、オンラインならではの構成で行われました。

アントレプレナーシッププログラム

アントレプレナーシップ教育とは、他者との協働作業を通し身の回りの解答のない問題を解決する資質や技術を身につけるプログラムです。よく「起業家教育」と同義に解釈されますが、起業は問題解決の１つの方法です。本庄高等学院では、将来世界をステージとして難問を解決する人材育成を目標として、アントレ教育を推進しています。

2023 年度実施した主なプログラムを以下に紹介します。

●キャリアデザイン講座

４月に早稲田大学学生時代に起業した方を講師としてお招きし、起業について講義を行いました。

●地域創造ワークショップ

７月に２日間を使い、大学生・早稲田実業と本庄学院の生徒がチームを作り、そこに国分寺市役所職員の方が加わり、国分寺市の町おこし起業のアイデアを競いました。2024 年度は８月に、本庄市を舞台に、一泊二日で開催する予定です。

●スタンフォード大学d.school講師によるデザイン思考ワークショップ

12 月にスタンフォード大学 d.school 講師 3 名の方によるデザイン思考（サービスや製品のアイデアを分析するための思考方法）ワークショップを開催しました。与えられたお題を体で表現するアイスブレイクの後、チームに分かれてバナナをテーマにした課題に取り組みました。

●WASEDA-EDGE Demo Day

２月に大手町で大学生チームに混じり、学院生が起業アイデアを発表しました。


デザイン思考ワークショップ終了後の記念写真


国分寺市での地域創造ワークショップでの学院生のプレゼンテーション

社会人からのメッセージ



世界で奮闘した経験が生んだ夢への「推進力」

2018年3月卒業
早稲田大学大学院 基幹理工研究科
機械科学・航空宇宙専攻

花田 知優

本庄高等学院での海外の学生との共同研究はとても刺激的で、私を大きく成長させてくれました。1年時、初めての海外交流では、英語での意思疎通がほとんど図れず、自身の力不足を痛感しました。しかし、数々のプロジェクトで生の英語に触れ、諦めずにその時自分にできる表現で伝える努力を続けました。その結果、3年時には国際交流プロジェクトのリーダーや、文科省への英語での研究発表を任されるまでになりました。本学院で培った、アウェーの環境にも積極的に飛び込みホームに変える力、プロジェクトチームを率いる力は、大学受験を飛び越えた、社会で必要とされる能力に直結すると強く感じています。

大学の研究では、国際宇宙ステーションにて浮遊金属の溶融凝固実験を行いました。失敗の許されない大規模ミッションを主体となって進め成功させられたのは、本学院で様々な状況に柔軟に対応しチームを率いた経験があったからだと思います。また、大学時代にボランティア留学に興味を持ち、自ら調べ1人で挑戦できたのも、本学院での経験と自信が背中を押してくれたからです。

学生時代の功績が評価され、現在は幼少期からの夢であった宇宙開発業界で働いています。本学院での学びを生かし、国際的に活躍できる技術者になることが今の目標です。



自由・知性・活気が育んでくれた「自分がやりたいこと」

1994年3月卒業
早稲田大学 政治経済学部 政治学科
カリフォルニア大学バークレー校（Ph.D.）
早稲田大学国際教養学部准教授
早稲田大学スチューデントダイバーシティセンター長

秋葉 丈志

本庄高等学院時代、私は生徒会長を務めました。生徒会運営をめぐって先生と議論をしていた時のこと。私が「それは手続の問題（に過ぎない）」というような発言をした瞬間、先生から「手続だからこそ大事なんだ」と言われ強く印象に残りました。そして行政が何かを決めていく際に、手続の適正さを求める国の「行政手続法」がその時制定されるところだったことを知り、こうした「手続」に焦点を当てた卒業論文を、当時の政経科目の先生の下で書きました。その後、政治経済学部に進学し、憲法や行政法を学び、早稲田とアメリカの大学院を経て、政治と法に跨る研究・教育を生涯の仕事とする自分がいます。

本庄時代を振り返ると、こうでなければいけないという形でやらされたことが、勉強を含めて思い浮かびません。本庄の先生方は自らも大学院などで研究をされてきた方が多く、授業にもその先生のこだわりのテーマが所々に盛り込まれ、先生が楽しそうに話す様子を思い出します。その環境の中で、私もやりたいこと、やりたい勉強を自発的に進めていく素養が整ったと思っています。いまの私を作ってくれた自由で知性と活気に溢れる本庄高等学院はいつまでも私の「心のふるさと」です。

Waseda University Honjo Senior High School

実践的な教育への取り組み

1 四季の移ろいの中で、人格と情操を育む

本庄市郊外、大久保山を中心とした広大な丘陵地一帯が早稲田大学本庄キャンパスです。ここには、セミナーハウス、本庄早稲田国際リサーチパーク、考古資料館、早稲田大学５番目の博物館である本庄早稲田の杜ミュージアムなど、早稲田大学の施設が点在しています。


水準測量実習

本庄キャンパスには、クリ、コナラ、アカマツなどの美しい林の中に、スミレ、ヤマザクラ、ヤマツツジ、ヤマユリなど季節の花が咲き、秋には形の面白いキノコも見られます。カブトムシ、クワガタ、タマムシ、タヌキ、ウサギ、キジなど多種多様な動物が生息する豊かな里山環境が広がっています。また、市内有数の桜の名所であり、大小の円墳・前方後円墳が点在する遺跡の杜でもあります。本学院では、このような環境を活用した授業、課外活動を積極的に実施しています。

美術の授業では、風景写生を実施しています。里山を凝視しそれを一枚の紙に写し取る過程を通じて、自然への理解を深めます。この取り組みは開校以来続く伝統となっています。生物関連の授業では植物や動物の観察法を実習しながら人間と自然との関係を学び、自然との向き合い方を考えます。地学関連の授業では広いキャンパス内で地球の大きさを測る実習を行っています。水準測量による丘陵の高低差測定、コンパスを使った地図作製、キャンパスの気温・湿度マッピングなど、キャンパスの地勢を最大限に活用した授業を実施しています。


風景写生


キャンパスの気温マップをつくる

歴史関連の授業ではキャンパス内に点在する古墳を利用することがあります。キャンパス内の畑で農作物を育てる授業もあります。2年次の総合的な探究の時間「大久保山学」では、このキャンパスをテーマとした前期後期異なる科目を組み合わせた8通りのコースから1つ選び、探究活動のテーマの視点の深め方について発展的な内容を学びます。

卒論のテーマとして本庄キャンパスやその周辺に生息する生物や植物を扱う生徒がいます。宇宙線を利用してキャンパス内の古墳の非破壊調査を行うなどのプロジェクト活動も行われています。また、同キャンパス内にある本庄早稲田の杜ミュージアムで学院生が学芸員の見習いを体験する連携活動も行われています。

皆さん、想像してみてください。今時、大音響でBGMや実況放送をしながら実施する体育祭や文化祭を行える高校がどこにあるでしょうか？珍しい鳥の鳴き声や草花を当たり前と思い、時折顔を見せるタヌキやキジを珍しいと思わなくなる高校がどこにあるでしょうか？四季の移ろいを感じながらのびのびと送る3年間の学院生活、黒板や本の上での話題ではない実体験として学ぶ授業や課外活動は、きっと人格や情操の形成、さらには将来の大学生活や仕事に大きな影響を与えることでしょう。


地図作製


地球の大きさを測る

残念ながら、その影響は例えば、英会話力やスポーツの技術のように、目に見える即戦力として現れません。皆さんの考え方や振る舞いの中にさりげなく現れる程度のものです。自分の部屋にお花を飾ってみたり、動物や考古学が以前よりも少し好きになったり、ハイキングで花やキノコ、虫の見分けが少しできるようになったり、その程度かもしれません。しかし、その程度のことが、長い人生で考えたとき、皆さんの日常生活の彩りにつながります。自然保護や環境破壊に一層、問題意識を持つようになるかもしれません。実は、それが皆さんの人生を豊かで意義深いものにするのです。さらには、将来の方向を決定づけるかもしれません。


宇宙線を用いた古墳の非破壊検査


本庄早稲田の杜ミュージアムでの
子どもたちへの勾玉作りワークショップ

学院生からのメッセージ



秋山 友花［３年］

所属部活動
茶道部
ワンダーフォーゲル部

私は、現在、伊勢崎括り絣の技を学んでおり、「固定観念に囚われない新たな視点や発想で、伝統工芸と現代の架け橋になる」という漠然とした夢へのアプローチ法を模索するために本学院に入学しました。

入学当初、絣の体験会を開くため、無理を承知で、学院長に企画書を提出したところ、熱心に向き合ってくださり、実現する機会や、アドバイスをたくさんくださいました。また、早稲田大学の附属である本学院では、アントレプレーナシップ教育をはじめとする様々な質の高いプロジェクトが提供され、この3年間で、沢山の新しい視点、価値観を知り、人に出会い、漠然としていた夢が明確になりました。私達の「やりたい」と全力で向き合えるワクワクした環境がここにはあります。

ぜひ、本学院での3年間で、自分の好奇心に飛び込んでみてください。

観る・触れる・対話する

2 社会と連携 学びの場を広げる

本庄高等学院で過ごす生活は、地域の人々の輪に加わり、地域と社会の問題の現場に足を運びながら、世代や立場を超えた多くの人と触れ合う貴重な時間です。学校の外の様々な場に学びの機会を求めることで、学院生は人間・社会・自然に対する感性を磨き、広い視野と見識を持った人間として成長します。

各教科の授業や課外活動では、多種多様なフィールドワークが行われます。例えば、3年次選択科目「地理学演習」の授業では、大久保山周辺の実地調査を行います。新旧の地形図や統計データを用いた実習を行い、学院周辺地域の特徴とその変化を把握します。それら事前学習を踏まえて、大久保山の地形や植生、土地利用を実際に歩きながら観察します。座学では得られない様々な事柄を発見しながら、身近な風景の成り立ちや人々の暮らしについて学習します。3年次選択科目「情報と表現」では、「本庄市でレストランを経営しよう」というプロジェクトを通して、市役所の説明・プロの方の指導を受けながら、本庄市の現状と問題を分析し、効果的なキャッチコピー、ポスター作り、経営戦略を考えます。


「ナビラにKoiして委員会」より映画部に感謝状


早稲田大学法廷教室での模擬裁判

現代社会の諸課題にも正面から取り組みます。各国の大使となって国際会議での交渉と決議採択を目指す「全日本高校模擬国連大会」に、有志生徒が例年出場しています。当事者の状況に思いを巡らせ、入念に準備した発言を交わし合うことで、問題の構図に分け入るとともに、そこに生じる責任の深さも実感します。課外で参加する「高校生模擬裁判選手権」では、本学院出身弁護士を招いて指導を受けます。

学院生は、在学中に良き有権者へと成長します。国政選挙のたびの「模擬投票」も10年来続けています。本学院では、ただ投票を経験するだけでなく、学院生自身が自らの投票行動の特徴を多角的に分析・考察する機会となります。

大人たちが織り成す実社会の壁に分け入り、対等に渡り合う。その経験から発案・企画したことが、学院全体でのプロジェクトとなり多くの人を巻き込んでまた社会へと動き出す。社会・地域との連携によるプログラムは、学院生が日頃の学習の成果を試し、社会の一員として自覚を深め、その中で自らの役割を見出していくための確かな土台を提供します。


高校生模擬裁判選手権


全日本高校模擬国連大会

本庄高等学院は、地域や本庄市との連携を積極的に行っています。地域小学校で科学教室・チアダンス・茶道教室などの総合学習や国際交流支援の講師、本庄市生涯教育プログラムである市民総合大学や「こども大学ほんじょう」の講師を学院生が務めています。本学院独自の子ども向け科学教室、英語に親しむWaseda English　Kidsも開催しています。また、地域企業との連携プログラムも進めています。地域ラジオ局である「ほんじょう　FM」との連携で、木曜日5時～5時45分の番組「くまごじ」のパーソナリティを学院生が務め、本庄市の隠れた魅力を視聴者に届ける試みをしています。JR本庄早稲田駅との連携で、2022年度は上越新幹線40周年記念式典「ほわフェスタ」、2023年度はJR本庄早稲田駅開業20周年記念式典を学院生がコーディネートしました。


本庄市民総合大学茶道教室


小学校プログラム、應援部による「チアダンス教室」


Waseda English Kids



ほわフェスタ2023における書道パフォーマンス

身の周りの問題から地球が抱える大きな問題に至るまで、解決すべき課題のほとんどは頭の中で考えたようには解けません。最適な答えの見つからない問題も多く存在します。このような、学校の枠に収まらない現実の社会における活動を通し、多くの学院生が自らの経験を広げることを期待します。

現実の社会を知ることで、何が問題なのかを分析し、より良い持続可能な社会を作る強いモチベーションと社会の様々な人たちと協働し意思決定をする事、その決定と結果には誇りと責任を持つ姿を身に付けて欲しいと思っています。

学院生からのメッセージ



小町 龍之介［３年］

所属部活動
演劇部、政治経済部
参加プロジェクト
本庄市高校生プロジェクト「七高祭」

私は、本学院に入学して多くの興味あることに挑戦することができました。2年次に参加した七高祭プロジェクトでは、本庄市の商店街の課題解決に携わりました。解決への道のりは容易ではなかったものの、その経験は身近なことに対する広い視野を与えてくれました。また、私は演劇部と政治経済部に所属しています。活動では自分の気持ちや考えを演技や言葉で表現するとともに、仲間の表現を感じて日々多くの刺激を受けています。

このような活動はすべて、挑戦してはじめて経験することができました。みなさんも本学院で、分野に関わらず少しでも興味を持ったことにどんどん挑戦してください。その挑戦がきっと、みなさんの将来に向けた道標になると信じています。

■大なる使命を　担ひて立てる　われらが行手は　窮り知らず

実践的な教育への取り組み

3 世界の人々と協働できる人間を育てる

「ダイバーシティ」「多様性」「多文化共生」という言葉を日常的に耳にします。本庄高等学院ではこの言葉を非常に重く考えています。これがなぜ大切なのか、真剣に考える機会となるのが国内外の高校生との交流です。国際情勢や環境問題、人権に関わる様々な課題について異なる場所に住み異なる習慣や文化を有する仲間とともに考え、多角的な視点から粘り強く話し合いを重ねる経験は多感な高校時代においてとても重要です。

国際交流では互いに行き来してその地域の文化を五感で感じることに勝るものはありませんが、一方でコロナ禍中に普及したオンライン交流には誰とでもどこにいてもすぐに会える、大きな強みがあります。アフターコロナとなる2023年度はコロナ禍以前のような対面交流の復活とオンライン交流の良さを合わせた未来型の国際交流を目指しました。2024年度はさらにそれを発展させるつもりです。


Kia-Oraプログラム


シンガポール研修での人文科学チームの研究発表

韓国テジョン市のセロナム高校生徒と学院生の混成チームを作り、持続可能な開発目標（SDGs）に関するオンライン共同研究に6カ月間取り組みました。この取り組みは2021年から継続しています。National Junior College（NJC、シンガポール）とは15年間の交流歴があります。2023年度は理系と社会科学系の2グループでオンラインと相互訪問の共同研究を行いました。

タイのMahidol Wittayanusorn School(MWIT)とは2015年より相互訪問交流をしていますが、まだ姉妹校協定にあたるMOU締結がなされていませんでした。2024年2月にMOUの締結を行いました。台湾の台中市立第一高級中学（台中一中）とは、2024年3月に2005年以来となるMOUの再締結を行いました。


MWITとのMOU締結


台中第一高級中学とのMOU締結

本庄高等学院には1年遅れで復学を認める「第一種留学」と一定の条件を満たした場合、留学中の成果を本学院の単位修得とみなし、1年遅れとならない復学を認める「第二種留学」の二つの制度があります。この制度を活用し、2023年度は3名の学院生が海外で学びました。また、本学院はEducation New Zealandと留学に関する協定を結んでおり、2023年3月より短期留学プログラムKia-Oraプログラム（Kia-Oraとはマオリ語で「こんにちは」の意味）がスタートしました。春休みと夏休みに2週間～3週間実施されます。

また、本学院は「高校生アジア架け橋プロジェクト」や「台湾高校生日本留学生事業」等での長期留学生受け入れ校となっています。留学生は通常の授業や部活動に参加するだけでなく、学校内外の文化紹介企画や在校生との共同学習企画への参加を通じ、多角的な学びへの刺激を互いに与え合う存在となっています。

世界は地球温暖化、自然環境の悪化、人口爆発、食料や水不足、国同士の紛争など、多くの解決困難な問題を抱えています。皆さんはこれらの難問に苦しむ地球を救うために、世界の人々と協働し、解決しなくてはなりません。本学院における3年間で、そのために必要とされる、問題意識、世界の人々とコラボレーションできる力とリーダーシップ、必要とされる科学技術や政治・経済・法律・倫理の基礎知識を身に付けて欲しいと思います。

留学生からのメッセージ



陳 佳榕
（チン・カヨウさん）
出身国　中国

本庄高等学院の皆さんと共に過ごした3カ月間を通じて、「自ら学び、自ら問う」という校訓を実体験することができました。

本学院では、生徒の批判的思考力を伸ばす、多元的な授業が行われています。私たちは大量の宿題に追われることなく、授業で実践的な経験を積みながら、自ら問題を発見し、解決策を見出すことを学びます。例えば、生物の時間で、生徒たちは先生と一緒に学校の隣にある大久保山に行き、自然の中でテーマを発見し、自分の論文を書きます。ELEの時間で、生徒たちは自分で資料を調べ、ステージに立って英語で発表することになっています。公共の時間で、生徒たちはマイケル・サンデルの著作を学び、古今の優れた思想に触れながら思考力を磨きます。

授業のほかに、多種多様な課外活動や部活動で活躍する生徒たちの姿も見られます。このような環境で励む生徒たちは、まさに将来の人材に必要とされる自主性、包容力と国際感覚を身につけていると思います。私もこの3カ月間で、世界観が変わり、とても勉強になりました。言葉の壁を乗り越え、私を受け入れてくれ、すばらしい留学体験をさせてくれた学院の皆さんに、心から感謝しております。

（陳さんに日本語でメッセージをいただきました。）

学院生からのメッセージ



今泉 詩音［3年］
留学先
　ニュージーランド
所属部活動
　バドミントン部

皆さんが思い描く高校生活はどのようなものでしょうか。私はKia-Oraプログラムに参加し、2週間ニュージーランドに短期留学しました。私が短期留学を通して学んだことは「とにかく挑戦し続けること、失敗を恐れないこと」です。自分の思っていることを上手く言えない歯がゆさも感じましたが、相手に考えを伝える方法は一通りではありません。画像を見せたり、ジェスチャーで表現したり、コミュニケーションの場において伝え方に正解は無いのだと気づくことができました。

本学院には様々な国際交流プログラムが用意されています。本学院での生活は、皆さんの価値観や常識を壊し、視野を広げてくれるでしょう。ぜひ一緒に刺激のある青春時代を過ごしてみませんか?

進取の心　拓く世界

4 科学技術への理解力と探究心を育む

多様でグローバルな科学教育活動は本庄高等学院の大きな特徴の1つです。

◆国際的なステージで活躍できる科学技術者の育成を目指して

本庄高等学院における科学教育プログラムの特色は、第一に早くから国際的なフィールドで活躍できる人材育成を意識して交流校を作り、海外の研究発表の場に積極的に参加してきた点にあります。定期的な交流を重ねるシンガポールのNational Junior College（NJC）、Mahidol Wittayanusorn School（MWIT）他、台湾の台中市立第一高級中学、韓国の安養外国語学院、中国の北京大学附属中学等多くの海外校との関係を作ってきました。これらの学校とのネットワークの中で国際高校生シンポジウムを独自に開催し、多くの生徒に国際的な研究発表の場を経験させる努力をしてきました。また、MWITが主催する世界最大規模の国際シンポジウムであるThailand International Science FairやNJCを会場とするSingapore International STEM Innovation Challenge（SISTEMIC）などの国際シンポジウムに参加する機会を作っています。これらの場は、探究活動における成果発表の目標として位置付けるとともに、世界の同世代の高校生と議論を交わす貴重な機会となっています。


シンガポール研修（科学班）


Thailand International Science Fairでの表彰


タイ研修（アユタヤにて）


SISTEMIC2023での表彰

◆教えることを通して学びを深める

二つ目の特色は、長く継続される多様な連携活動や地域貢献活動です。2009年度より本庄市内河川の環境調査・環境改善活動を行っています。2012年度からは市内小学校と年2回一緒に行う小山川・元小山川の合同河川調査の他に、児童たちが環境と科学に親しめるような総合学習の指導を学院生が行っています。この地道な活動が評価され2022年度第11回毎日地球未来賞SDGs未来賞・彩の国埼玉環境大賞優秀賞など多くの賞を受賞しています。

地域の子供たちに向けた科学教室は、開校以来継続されており、現在も本学院独自開催のもの、本庄市主催の市民総合大学・こども大学と多彩な開催形態で学院生が講師を務めています。

このような活動を通して、教えることが学院生の学びの深まりにつながっています。



川の日ワークショップ関東大会での発表


子ども大学ほんじょう「科学教室」

◆卒業論文執筆に向けたアカデミックリテラシーの習得

本学院では全員が2年生後半から卒業論文に取り組みます。より良い論文作成を目指すために、情報の授業では論文リテラシーを含むアカデミックリテラシー習得に特化した展開をしています。2年次には総合的な探究の時間として「大久保山学」に加え、理数探究基礎の授業を行っています。プレゼンテーションやレポート・論文を課される授業も多く、これらの授業を通じて、独自の論文リテラシー教育、プレゼンテーションメソッドを開発してきました。学院生は在学中に必然的にアカデミックリテラシーを身に付けていきます。

理系文系を問わず、卒業論文の秀逸なものは、積極的に対外的なコンテストに応募し、対外的な評価を得る努力をしています。今まで多くの作品が学会で発表したり、賞を受賞したり、査読付きの論文誌に掲載されています。

◆学術的な興味と視野を広げる試み

学院生の科学の興味のきっかけづくりを目的として「これがサイエンスだ!」という独自の取り組みを行っています。ここでは、学院教員の専門を活かした年10回ほどの課外講義に加えて、夏休み・冬休み・春休みに科学や数学のテーマについて議論し理解を深めあうことを目的とした合宿を実施しています。これとは別に、文理の垣根を超えた学際研究の実践として早大考古資料館・本庄市・学外研究機関と連携し、宇宙線やレーダーを利用した古墳の物理調査を行うほか、人間科学部と連携し、人間工学に関する測量や実験を体験するプロジェクトを定期的に開催しています。


これがサイエンスだ!講義


これがサイエンスだ!夏合宿


秋山庚申塚古墳の宇宙線透視測定


人間科学部による人間工学測定体験

国土が狭く天然資源が乏しい我が国の未来を占うカギの1つは、国際性及び科学技術教育にあります。他国の生徒と気後れせずに議論できる英語力、基礎的な知識と高い創造性及び倫理観に裏付けられた科学技術への探究心を持った人材の育成が急務です。同時にこのような人間こそが、本学院が育成しようとしている科学技術人材です。

学院生からのメッセージ



内藤 千晶［3年］
所属部活動
　茶道部、地学部、
　ソフトテニス部

私は河川研究班に所属し、卒業論文で川エビの研究を行っています。本学院では、専門性のある素晴らしい先生が、私たちの探究心と好奇心を後押ししてくれます。「研究」というと、すごい発見をしなくてはならない難しいことのように思えたりしますが、その種は日常生活の中にもたくさん転がっています。高校生でも大きな発見ができるかもしれません。

エビの研究は、私の活動の場を世界へと広げてくれました。JSSFやSISTEMICという、世界から高校生が集まる国際科学シンポジウムでの研究発表もそのひとつです。本庄高等学院での密度の高い経験と思い出は、私にとって一生の宝物です。学院生は、一人ひとり、それぞれの輝き方を持っています。本学院に溢れる自分を試すチャンスの何を頑張るか、そしてどう成長し、どう輝くか、それはみなさん次第です。その選択肢のひとつとして、「研究」に没頭するのはいかがでしょう?

本学院での可能性は、無限大!

■あれ見よかしこの　常磐の森は　心のふるさと　われらが母校

キャンパスマップ

自然に抱かれ 感性を養う

①稲穂ホール棟

2015年に竣工した稲穂ホール棟には、428座席を備える稲穂ホール、図書室、音楽室があります。図書室は、高校の図書室としては、トップレベルの蔵書数を誇ります。また大学図書館蔵書の検索用端末も設置され、卒業論文作成などに利用されています。

●蔵書数:図書約10万冊、CD約3,500タイトル


外観


内観

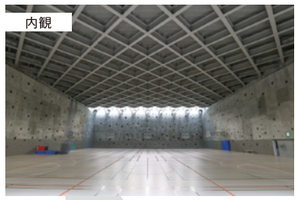

音楽室


図書室

②体育館

2020年に竣工した体育館の1階には、卓球や剣道などに利用する多目的室やトレーニングルーム、講義室が配置されています。2階のメインアリーナは約1,440㎡と、バレーボールコート3面分、バスケットボールコート2面分を展開できる広さを有します。また、3階部分には、ランニングコースが整備されています。この体育館は体育の授業、部活動の他、集会など様々な用途に利用されています。


外観


内観


トレーニングルーム


サブアリーナ

③校舎

概要

■地上3階
鉄筋コンクリート造

■1階
校舎1階には、メインエントランス、ワークショップエリア、食堂、売店、美術室、家庭科教室、保健室などがあります。

■2階
校舎2階には、通常の授業を行う普通教室をはじめ、交流ラウンジ、地理演習室、CALL教室、2つの情報処理教室、ゼミ室、教員室などがあります。

■3階
校舎3階には、普通教室をはじめ、交流ラウンジ、5つの理科実験室、3つのゼミ室などがあります。


普通教室


ゼミ教室


情報処理教室


CALL教室


美術室


理科実験室


個人用ロッカー


家庭科調理室


食堂

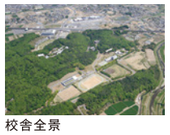


売店


保健室


カウンセリング ルーム


校舎


校舎全景

⑨本庄早稲田の杜ミュージアム



2020年に開館した本庄市と早稲田大学が所蔵する文化財を共同で展示するミュージアムです。笑った表情をした盾持人物埴輪など本庄市内出土の考古資料と映像・年表から本庄の歴史を辿るほか、早稲田大学の貴重な所蔵品を企画展示しています。

■開館時間／9:00~16:30
■休館日／月曜日（祝日の場合は翌日）、年末年始（12/28~1/3）
■入館料／無料



校舎内には多数の絵画が飾られています。日ごろから美術作品に親しんでほしいという思いが込められています。

（写真は「サンソヴィーノが語る日」藪野 健 作）


⑧大隈重信像


上越・北陸新幹線本庄早稲田駅


宥勝寺



キャンパス内には塚本山古墳群があり、100以上の古墳が見られます。考古資料館を活用した教育を行っています。


④テニスコート


⑤サッカー場


⑥グラウンド


⑦野球場

野球場、陸上競技場・ラグビー場、サッカー場、テニスコートなど各種目専用のグラウンドを完備しています。

スクールバス

電車の発着および授業の始業と終業に合わせて運行しています。発着駅、所要時間については、表の通りです。



発着駅	所要時間
本庄駅南口	約13分
寄居駅北口	約30分
松久駅	約20分

Waseda University Honjo Senior High School

■集まり散じて　人は変れど　仰ぐは同じき　理想の光

クラブ活動

文化部門一覧 ※2024年5月現在

■文芸部　■地学部　■スーパーサイエンスクラブ　■美術部　■グリークラブ　■ブラスバンド　■ESS　■写真部　■囲碁・将棋部　■軽音楽部　■EMANON※1　■ピアノ部　■地歴部　■数学研究会　■競技かるた部　■化学部(休止中)　■クイズ研究会(休止中)　■演劇部　■映画部　■書道部　■政治経済部　■落語研究会(休止中)　■茶道部

※1　2024年度末に休止予定

運動部門一覧 ※2024年5月現在

■陸上競技部(男女)　■サッカー部(男)　■ラグビー部(男)　■硬式テニス部(男女)　■ソフトテニス部(男女)　■硬式野球部(男)　■バレーボール部(男)　■バスケットボール部(男女)　■剣道部(男女)　■卓球部(男女)　■バドミントン部(男女)　■ワンダーフォーゲル部(男女)　■應援部(男女)　■自転車部(男)　■スキー部(男女)※2

※2　2025年度末に廃部(新入生の入部は受け付けていません。)

※公認団体として本学院にない競技等については、入学後に本学院名を用いて連盟等の団体に登録することはできません。本学院の教員による引率や学校生活における配慮はできません。

プロジェクト活動一覧

■附属連携プロジェクト…高等学院と一緒に学院生活を充実させるプログラムの検討を行います。
■国際交流プロジェクト…海外の高校との交流、国際シンポジウムへの参加を行います。
■地域連携プロジェクト…地域の子供たちへの授業、地域内の高校生との協力活動を行います。
■企業連携プロジェクト…地域局(ラジオ)のパーソナリティ、企業イベントへの協力などを行います。

茶道部



北村 ひなた［3年］

多様性を重視している本学院には、様々な部活動が存在します。茶道部はその中でも特に、「多様」な体験ができる部活です。

普段はお稽古や月に一度のお茶会を通して、日本の伝統文化「茶道」に触れることが出来ます。さらに、和菓子作りやお茶碗作りなど、「茶道」の枠にとどまらない日本文化の探求を行えます。また、本学院に来た諸外国の来客や留学生と交流し、様々な国や地域の文化の多様性に触れることもできます。

受験生の皆さん、本学院、さらに早稲田本庄茶道部で多様性に触れてみませんか?きっと、新しい世界が広がっていると信じています!

陸上競技部



石原 佳篤［3年］

私は、陸上が大好きです。顧問の先生が絶対ではないため、広大で充実した設備の中、自らメニューを作成し、日々努力をすることで、昨年度、八種競技でインターハイに出場することができました。

好きなことに没頭し、選手として飛躍的に成長できる環境が本学院にはあります。また、本学院には多様な部活動が存在し、多元性の最先端を象徴しています。私の所属する陸上競技部においても、ファンランナーから日本一を目指す選手までその層は幅広く、互いが認め合い、高め合える存在となっています。

長いようで短い学院3年間が、最高で実りある青春時代となりますよう、また、部活動経験を通して、人として大きく成長できますよう、心より願っています。



人とつながる　共に生きる

学院生の生活



宮田 苑佳
［2024年3月卒業］
所属部活動(在学時)
女子ソフトテニス部

◆4時限まで授業のある日の1日

6:30	7:30~	9:10~13:10	14:00~18:00	18:00~	19:15~	19:30~20:30	21:00~	22:00~	23:00
起床	登校	授業	部活動	下校	夕食	課外活動会議(オンライン)	学習時間	入浴	就寝

◆学院生活

学院生活で私が力を入れたのは、国際交流プログラムへの積極的な参加です。私は今まで海外経験もなく、英語が得意ではありませんでしたが、何かに熱中したいと思い、課外活動に参加するようになりました。国内外のサイエンスシンポジウムやオンラインシンポジウムの運営、海外校との交流を通して、世界中に一生の友達を作ることができ、今でも彼らと頻繁に連絡を取り合っています。もちろん、日々の課題やテストに向けた勉強、部活動、行事、卒業論文執筆がある中で忙しい時期もありましたが、課外活動は自分がしたいと思って応募したものなので、モチベーションを高く保ったまま参加することができました。

部活動引退後は卒業論文執筆に本格的に動しみました。自分の決めたテーマを、担当の先生にアドバイスをいただきながら、客観的に深掘りして自分の見解を裏付けし、自分の文章を批判的に推敲する作業は想像以上に大変でした。しかし、論理的に物事を考える姿勢と情報リテラシーが身につき、高校生のうちにこのような経験ができたことは学院生としての大きなアドバンテージだと感じています。

本学院では一人ひとりの自主性が大切にされ、やりたいことを思い切りできる、恵まれた環境が用意されています。しかし、逆に言うと自分から動かないとその素晴らしい環境を生かすことなく3年間が終わってしまいます。ぜひ本学院に入学し、日々の学院生活に加え、自分の軸となるものを磨く、もしくは見つけ、濃密な3年間を送ってください。

◆参加課外活動

Japan Super Science Fair 2021, 2022
MWIT online Exchange program 2021
Asia Academic & Cultural Sessions 2022, 2023
Saeronam CS - Waseda Honjo International Symposium 2022
小学校プログラム
グローバルキャンプinかみかわ
Waseda Honjo English Kids
地域創生アイデア創出プログラム
MWIT受け入れバディ
Singapore International STEM Innovation Challenge

◆卒業論文のタイトル・テーマ

生徒が主体的に学べる国語の授業とは
―夏目漱石『こころ』を題材としたアクティブラーニング―

◆通学方法

自宅→(自転車)→高崎駅→(JR高崎線)→本庄駅→(バス)→学院
所要時間:約1時間

◆進学学部

早稲田大学 政治経済学部 経済学科





平松 大空［3年］
所属部活動
サッカー部

◆6時限まで授業のある日の1日

5:50	6:00~	6:45~9:00	9:10~15:40	16:00~18:20	18:35~20:55	21:00~	22:00~	23:00
起床	朝食	登校	授業	部活動	下校	夕食	入浴	就寝

◆学院生活

私にとっての本庄高等学院は、やりたいことをやりたいだけできる最高の環境だといえます。

私は毎日約2時間かけて本庄高等学院に通っています。朝早く起床し、帰宅後は寝るまでほとんど自由時間はないのが日常です。入学したばかりのころは大変に思えた生活でしたが、時間をうまく使うことで勉強、部活動、私生活のどの面も充実させることができるようになりました。

私の場合、遠距離通学に加え、所属していたサッカー部で週6日活動しており、自宅での時間はほとんどなかったので、授業をしっかり聞いてできるだけ授業内で内容を理解し、復習が最低限で済むように心がけていました。当然それには睡眠が欠かせないため、行きの電車は寝る時間と割り切り、また就寝時刻も過度に遅くならないようにして睡眠時間を確保していました。またわからないところは放置せず、先生もしくは友達に聞いて、すぐに解決するようにしていました。普段からこのように行動することで、テストにも余裕を持って臨むことができました。

自分の中で勉強の方法が確立されたことで、部活動にも存分に取り組むことができました。様々なバックグラウンドを持つ仲間たちと、大学受験を気にすることなくサッカーに集中できる環境は貴重で、私の本学院での思い出の大部分を占めています。

このように、遠距離通学をしながらでも、自分次第でどんなことにも取り組めるのが本庄高等学院の魅力だと思います。ぜひ魅力的な友達や先生方とともに、充実した学院生活を送ってください。

◆卒業論文のタイトル・テーマ

「ナルニア国物語」における主人公の交代の意義

◆通学方法

自宅→(自転車)→和光市駅→(東武東上線)→寄居駅→(スクールバス)→学院
所要時間:2時間15分



■いざ声そろへて　空もとどろに　われらが母校の　名をばたたへん

学院行事

4月 April
- 入学式
- 始業式
- 新入生ガイダンス
- 卒業論文
  第１次中間報告
- 日本医科大学
  キャンパスツアー

5月 May
- 生徒総会
- 中間試験
- 早慶戦応援
  （東京六大学野球）

6月 June
- 体育祭
- 保護者会
- 学部説明会
  （~10 月まで随時）

7月 July
- 期末試験
- 夏季休業
  （７月中旬～９月上旬）

9月 September
- 卒業論文
  第２次中間報告
- キャリアデザイン
  ウィーク

10月 October
- 3 年修学旅行
- 1・2 年学年行事
- 1・2 年球技大会
- 中間試験



入学式

例年、大隈講堂にて入学式を行っています。
ここで、「ワセダの一員」として、新入生はそれぞれに
大きな夢を抱きます。



始業式・対面式

新入生が本庄高等学院の仲間となる日に、始業式と対面式を行います。
上級生が早稲田の応援歌を歌って歓迎します。



早慶戦応援

第１学年の行事として全員参加で神宮球場へ行きます。
仲間と応援歌を歌い、一丸となって早稲田大学野球部を応援します。



体育祭

新緑の美しい時期に
体育祭が行われます。

学院生からのメッセージ



雑賀 紗友［3年・生徒会長］

本学院は強制されることが少ない学校です。細かな校則がない自由な校風で、一人ひとりの個性がよく目立ちます。多様なバックグラウンドを持った仲間との日常は、様々な価値観に触れることができ、私の視野を広げてくれました。学院生それぞれが思い描く未来像はもちろん異なりますが、共に切磋琢磨し、互いに尊重し合い、良い影響を与え、自らの成長に繋げています。そんな優れた環境で高校生活を送ることは、きっと皆さんにとってかけがえのない財産になるはずです。受験勉強にとらわれることなく、自分のやりたいことに向き合い、この本庄高等学院で充実した時間を過ごしてください。



修学旅行

現在、台湾・韓国の２つのコースに分かれて行っています。
（写真は台湾コースの様子）

仲間と創る　学びの場

11月 November
- 稲穂祭
- 芸術鑑賞教室
- 生徒会役員選挙

12月 December
- 期末試験
- 冬季休業
  （12 月中旬～１月上旬）
- 保護者会
- 3 年卒業論文提出

1月 January
- 3 年学年末試験
- 3 年推薦学部発表

2月 February
- 卒業論文報告会
- 入学決定者の集い

3月 March
- 1・2 年学年末試験
- 終業式
- 卒業式
- 春季休業
  （3 月中旬～４月上旬）

※2024 年度当初予定



芸術鑑賞会

外部の団体・個人を招へいし、年に１回芸術活動の鑑賞を行います。
毎年、高い水準の文化活動に触れることで、豊かな教養を身につけます。



球技大会

サッカー、ソフトボール、バレーボールなどの種目で、
1、2 年生が優勝を目指して競い合います。



稲穂祭

生徒が主体となって企画・運営する文化祭です。
体育祭と並んで学院生が最も熱くなる場です。



学年行事

秋には学年行事として様々な催しが行われます。
（写真はリンゴ狩り）



卒業論文報告会

本庄高等学院の学びの集大成として「卒業論文」があります。
この成果は報告会という形で、下級生へ引き継がれます。



卒業式

３年間の学院生活の締めくくりです。
一人一人の卒業生が呼名され、高校生活の意味を振り返りながら、
早稲田大学に巣立っていきます。

Waseda University Honjo Senior High School

生徒寮 早稲田大学本庄高等学院 早苗寮(男子)・梓寮(女子)

仲間を感じ 自律心を養う

1982年の開校以来、遠方から入学を希望する生徒や、時間を有効に使いたいと思っている生徒、そして、親元を離れ自律心や協調性などを身につけたいと思っている生徒などの為に、寄宿制度を設けてきました。

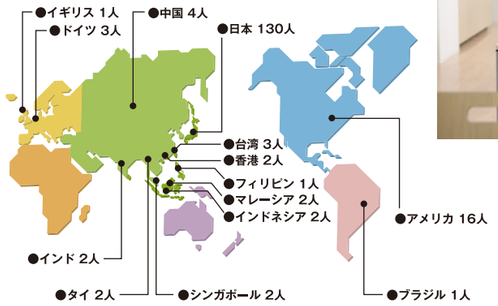
現在は、JR本庄駅から徒歩3分ほどのところにある男子専用の「早苗寮」と、新幹線本庄早稲田駅から徒歩1分ほどのところにある女子専用の「梓寮」があり、多くの生徒が共同生活を送っています。

それぞれの寮には寮長と寮母が常駐し、夜間や休日には警備員が巡回警備に当たり安心した生活ができる環境を作っています。また、教員は寮担任を中心に定期的に寮を巡回し、生活面や学習面のサポートを行っております。

朝夕の食事は栄養士が献立を作り、寮長が中心となって調理しています。部屋はすべて個室で、ベッド、棚、小型冷蔵庫、インターネット回線などを完備しています。

寮生には、楽しくも厳しい「本物の自由」を理解し、学院生としての自覚を持って主体的に日々の生活を送り、寮運営や寮の行事にも積極的に関わることを期待しています。

●出身地域別寮生数(2024年4月現在)




●早苗寮 正面外観

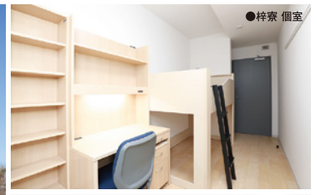

●早苗寮 個室


●早苗寮 トレーニングルーム


●早苗寮 食堂


●早苗寮 エントランス


●梓寮 正面外観


●梓寮 個室


●梓寮 ラーニングコモンズ


●梓寮 食堂


●梓寮 中庭

寮生を見守りサポートします

早苗寮 寮長・寮母メッセージ

初めて家族から離れ寮生活をされる子どもたち、最初は不安と期待でいっぱいだと思います。また、大切なお子様を送り出す保護者の皆様におかれましても心配は尽きないと思います。

早苗寮では、栄養士によるメニューを料理長が安心安全に提供している他、衛生面では清掃員が共有部の清掃を行い、気持ち良く寮生活を送れるようにサポートしております。また、管理においては決められたルールに則って子どもたちのサポートを行っております。子どもたちにとっていろいろな人と関わりながら集団生活をするという経験は自律心を育み大きく成長させる事でしょう。

私たちは子どもたちの成長を見守り、早苗寮での生活が実りのあるものになるよう３年間サポートしていきたいと思っております。

梓寮 寮長・寮母メッセージ

寮生活はさまざまな環境で育った人たちと集団生活をする場になります。自分と価値観の違う人と交流し、人間関係の作り方を学ぶことは、これからの人生で大きなメリットとなることでしょう。また、同じ境遇で生活する仲間同士で励ましたり、助け合ったりして深い絆もできます。

家族と離れての生活は大変な部分もあるかと思いますが、それは必ず自分の力になります。そして、3年間寮生活を送れば、自律心と生活力が身に付くはずです。

生活するうえで最も大切なものは、健康です。楽しく健やかに過ごすために、私たちは常に近くでサポートしていきたいと思っております。

早苗寮・梓寮に関するよくある質問

Q1. 入寮を希望すれば全員が寮に入れますか。
A1. 定員の範囲内で、通学時間や距離、その他の事情を総合的に判断して、本学院が入居者を決定します。2024年度入学者の入寮希望者は男女ともに全員が入寮できました。

Q2. 学年の途中から入居することはできますか。
A2. 空室があれば可能です。

Q3. 食事はありますか。
A3. 食事は朝・夕の２食が提供されます。ただし、日曜・祝日と指定の休食日(お盆期間・年末年始など年間19日)はありません。

Q4. 部屋は個室ですか。
A4. 部屋はすべて個室です。室内には机(書棚・ワゴンつき)、ベッド(収納つき)、クローゼット、ミニ冷蔵庫、エアコンなどが完備されています。

Q5. 夏休みや年末年始にも寮にいることはできますか。
A5. 閉寮期間はありません。365日滞在可能です。

Q6. 外泊(帰省)はできますか。
A6. 週末や長期休暇中の外泊は可能です。事前に外泊願を提出してもらいます。

Q7. 友人や家族を寮内に招き入れてもよいですか。
A7. 寮生以外の友人や保護者を含む家族の立ち入りを禁止しています。

Q8. 管理スタッフは常駐していますか。
A8. 寮には常駐の管理スタッフとして、生活全般を見守る寮長・寮母の２名が住み込んでいます。

Q9. 学院の教員は住み込んでいますか。
A9. 常駐しませんが、巡回指導を行っています。また、寮生には十数人のグループごとに割り当てられた担当教員(寮担任)がおり、定期的に寮を訪問して学習・生活指導をしたり、寮生からの相談を受けたりします。

Q10. 一時的に入寮することはできますか。
A10. 一時的な入寮はできず、原則として退寮は年度末になります。

寮生の1日

●丸藤さん(4時限まで授業のある日の1日)

7:00	7:10~	8:00~	8:30~	9:10~13:10	13:20~	14:00~16:00	16:10~	16:40~	17:00~	18:30~	19:00~	23:00
起床	朝食	登校	朝練(バスケットボール部)	授業	昼食	部活動	下校	入浴	自由時間	夕食	自由時間 学習時間	就寝

●酒井さん(6時限まで授業のある日の1日)

7:30~	8:20~	9:10~15:40	16:00~18:40	18:40~19:00~	20:00~	21:00~	23:00
起床・朝食	登校・朝練	授業	部活動	下校	夕食	入浴	自由時間 学習時間	就寝

●施設・設備

	早苗寮(男子)	梓寮(女子)
部屋数	個室(136名)	個室(120名)
設備概要	設置場所:高崎線本庄駅徒歩3分 建築面積:745.27㎡ 延べ床面積:3443.10㎡ 階　数:地上6階・地下1階 構　造:鉄筋コンクリート造 ｴﾚﾍﾞｰﾀｰ:南棟1基、北棟1基	設置場所:上越・北陸新幹線本庄早稲田駅徒歩1分 建築面積:1419.44㎡ 延べ床面積:3700.16㎡ 階　数:地上4階 構　造:鉄筋コンクリート造 ｴﾚﾍﾞｰﾀｰ:1基
主な設備	地下1階:食堂(大型テレビ)・中庭・浴場 1　階:エントランスホール ラウンジ(コピー機・自販機) 個　室:机・椅子・ベッド・クローゼット・カーテン・エアコン・小型冷蔵庫・インターネット設備 浴　場:完備。各階にシャワールームも有り。 その他:洗面・トイレ・洗濯機・乾燥機は共同。	1　階:エントランスホール・食堂(大型テレビ)・ラーニングコモンズ・中庭・浴場・コピー機・自販機 個　室:机・椅子・ベッド・クローゼット・カーテン・エアコン・小型冷蔵庫・インターネット設備 浴　場:完備。各階にシャワールームも有り。 その他:洗面・トイレ・洗濯機・乾燥機は共同。

●入居契約・入居費用(税込)

	早苗寮(男子)	梓寮(女子)
入寮時	入寮費120,000円、保証金50,000円	
年徴収	自治会費3,000円、シーツ交換代1,500円	
月額	寮費95,600円(個室使用料、共益費、食費など含む)	寮費97,600円(個室使用料、共益費、食費など含む)
	※コインランドリー費用が別途かかります。 ※日曜・祝日は食事の提供がありません。また、夏・冬休み期間・温習日など年間19日間程度の休食日があります。実際の食事提供数にかかわらず、月額寮費は一定です。	
	閉寮期間はありません。(365日滞在可能)	

●日課表

起床	6:30
朝食	6:45~8:15
夕食	18:00~20:30
入浴	18:00~23:00
門限	20:00(日・祝日 21:00)
消灯	23:00

※2024年度実績

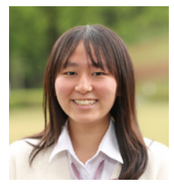
寮生からのメッセージ



丸藤 令偉 [3年]

所属部活動
男子バスケットボール部、軽音楽部

寮生活を通して私は自律心と受容力を身に付けました。寮での生活は自由度が高く、寮生活をしている学院生はほかの学院生に比べて登校時間が短いため、多くの時間を部活動や趣味、学院でのプロジェクトに費やすことができます。その有意義な時間は学院生活をより色鮮やかなものにしてくれるはずです。しかし自由である反面、身の周りの洗濯・掃除、お金・時間の管理をすることが求められます。また、寮は様々な地域から来た人たちと集団生活をする場所です。自分とは異なる価値観を持つ人たちと交流することで新たな価値観やコミュニケーション能力を育むことができます。寮生活を通して学んだことは必ず自分を成長させてくれます。皆さんも早苗寮で充実した生活を送りませんか?



酒井 七海 [3年]

所属部活動
バレーボール部(マネージャー)

私は寮生活を通して計画的に行動することを身につけられました。寮生になると「勉強しなさい」と言ってくれたり、自分が学校にいる間に洗濯や掃除をしてくれたりしている親がいません。スケジュールやお金の管理も全て自分で行います。しかし、勉強をしないと留年する恐れがあり、お金の管理をしないと無駄遣いをしてしまいます。そのため、自分でやることを把握し、時間と向き合うことで計画的に行動することができるようになりました。大変なこともありますが、寮にいる周りの人が皆、同じ状況にいるため自分も頑張ろうと思うことができます。お互いに頼り、頼られる関係を築けたからこそ、今私の高校生活は充実しています。

ぜひ、梓寮に入ってみんなと集団生活を送ってみませんか?

2025年度 入学試験概要（2025年4月入学者用）

入学試験の詳細は、10月以降に公開する『入学試験要項』に記載します。
本学院WEBサイト「入試FAQ」もご確認ください。

国内生 「一般入学試験」と「α選抜（自己推薦入学試験）」は併願できます。

一般入学試験

■募集概要

募集定員	男子：約100名　女子：約70名
出願期間	2025年1月11日(土)～1月25日(土)［消印有効］
試験日	2月 9日(日) 国語・数学・英語（各50分）
合格者発表	2月12日(水)
学費等納入締切	2月17日(月)
入学手続申請締切日	2月17日(月) 16:00
書類等作成・提出締切日	3月 5日(水)

※詳細は入学試験要項をご確認ください。

■出願資格

以下(1)(2)のすべての要件を満たしている者。
(1)2008年4月2日～2010年4月1日までに出生した者。
(2)次の(ア)(イ)のいずれかに該当する者。
　(ア)日本国内の中学校あるいは中等教育学校（中高一貫校）の前期課程を、2025年3月に卒業（修了）見込みの者、あるいは2024年3月に卒業（修了）した者。
　(イ)(ア)に該当しない者のうち、2025年3月までに国の内外を問わず通常の課程による9年間の学校教育を修了または修了見込みの者。

■入学検定料

30,000円

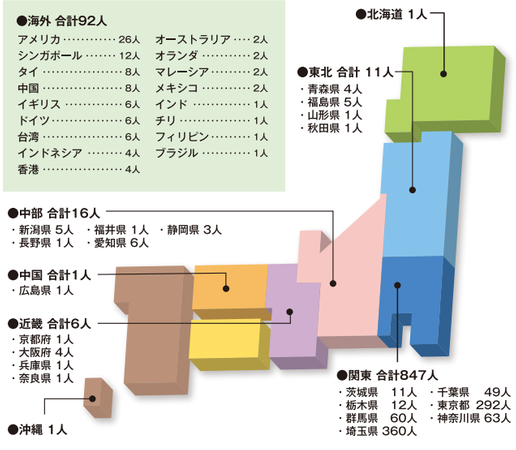
■入学試験場

早稲田大学早稲田キャンパス（東京都新宿区）

■選考

合否は試験の結果と出願書類（調査書等）をふまえ、総合的に判断します。

出身地別生徒数（2024年度） ※出身中学校の所在地別にカウント



α選抜（自己推薦入学試験）

α選抜は、優れた学力・体力を有し、かつ意欲的で努力を惜しまない、そして何よりも、早稲田大学への進学を強く志す生徒諸君を受け入れる試験です。文化・芸術の分野であれ、スポーツの分野であれ、語学や学問においても、一つのことに打ち込み、粘り強く努力を続け、何らかの成果を得た者には、そこに至る過程で身につけた「何か」があるはずです。本学院は、この「何か」を重んじます。α選抜は、「何か」すなわち「プラスアルファ」を有する生徒を受け入れることを目的としています。

■募集概要

募集定員	男子：約45名　女子：約30名
出願期間	2024年12月18日(水)～2025年1月5日(日)［必着］
第1次(書類選考)合格者発表	1月15日(水)
第2次選考	1月23日(木)面接
第2次合格者発表	1月25日(土)
学費等納入締切	1月29日(水)
入学手続申請締切日	1月29日(水) 16:00
書類等作成・提出締切日	3月 5日(水)

※詳細は入学試験要項をご確認ください。

■出願資格

次の(1)～(5)のすべての要件を満たしている者。
(1)**本学院を第一志望とし、合格した場合は入学を確約できる者。**
(2)国内中学校（学校教育法第1条に定める、日本国内の中学校もしくは中等教育学校の前期課程）に2023年9月以降在学し、2025年3月に卒業・修了見込みであること。
(3)国内中学校でのすべての教科の学年成績（9教科5段階評価）に1および2がない者。かつ、2年次の成績が9教科5段階評価で合計38以上、3年次（2学期末まで）の成績が合計40以上であること。
(4)国内中学校での欠席日数の合計が30日未満である者。（ただし、けが・疾病等による長期欠席がある場合は、欠席日数の合計が30日以上でも出願を認めることがある。その事由が調査書に明記されていること）
(5)国内中学校在学中に、次の(ア)～(ウ)のいずれかに該当する者。
　(ア)学校内外の諸活動により、文化・芸術・スポーツ等の分野で都道府県以上の大会またはコンクールに出場し、個人もしくは集団の一員として特に優れた成績をあげた。
　(イ)資格試験・技能試験等で優れた成績・評価を得た。
　(ウ)学業において総合的に極めて優秀であり、学校内外で積極的な諸活動を行った。
※帰国生認定を受けた受験生で、α選抜に出願した場合、帰国生入試には出願できず、一般入試にのみ出願可能となります。

■入学検定料

第1次（書類）選考:10,000円　　第2次（面接）選考:20,000円

■第2次選考会場

早稲田大学本庄高等学院（埼玉県本庄市）

■注意事項

＊公認団体として本学院にない競技等であっても、α選抜でアピールすることが出来ます。
＊ただし、公認団体として本学院にない競技等については、入学後に本学院名を用いて連盟等の団体に登録することはできません。本学院の教員による引率や学校生活における配慮はできません。
＊α選抜でアピールした活動を本学院入学後に継続する義務はありません。

帰国生 「帰国生入学試験」と「Ⅰ選抜（帰国生自己推薦入学試験）」は併願できます。

帰国生入学試験・Ⅰ選抜共通 ※「帰国生入学試験」と「Ⅰ選抜」では入試日程等が異なりますのでご注意ください。

本学院は開校以来一貫して、早稲田大学を志す生徒を全世界から広く受け入れています。一人ひとりの個性を尊重し、確かな基礎学力の上に豊かな創造性と積極的な発信力を育む本学院の教育は、海外経験に支えられた帰国生のしなやかで逞しい適応力と語学能力に、より一層の磨きをかけます。さらに、世界各地の文化や生活を知る帰国生と日本全国から集まる生徒が互いに刺激し合うことによって、本学院は、生徒たちが未来の国際社会を見据え、豊かで深みのある価値観と人生観を醸成する場になっています。

■出願資格

次の(1)～(3)のすべての要件を満たしている者。
(1)2008年4月2日から2010年4月1日までに出生した者。
(2)国の内外を問わず、通常の課程による9年間の学校教育を修了、または修了見込みであること。ただし、本学院が、中学校卒業と同等以上の学力があると認めた者についてはこの限りではない（その場合には、2024年12月までの在学期間が明記された『在学証明書』を提出すること。また、2025年3月まで継続して在学すること）。
(3)海外在住期間が次の(ア)、(イ)のいずれかを満たす者。
　(ア) 2022年4月～2025年3月における海外在住期間の合計が原則として1年6ヶ月以上であること。
　(イ)上記(ア)における海外在住期間の合計が1年以上1年6ヶ月未満の場合は、2018年4月～2025年3月における海外在住期間の合計が4年以上であること。
※「海外在住期間」とは「保護者と同居している期間」を指し、本人個人の留学期間等は該当しない。
※新型コロナウイルス感染症の影響で、国内中学校へ弾力的な編入をした場合などは、『帰国生出願者　資格認定申請』の備考欄にその旨を記載してください。

■出願資格の認定について

(1)申請方法
　本学院WEBサイトの帰国生出願資格認定のページに掲載されている申請フォームより申請すること。
　トップページ＞受験生の方（学院説明会・入試情報）＞帰国生出願資格認定
　※申請に際しては、受験生本人（あるいは保護者）のメールアドレスおよび国内連絡先が必要となります。
(2)申請期日
　2024年9月1日(日)9:00～11月15日(金)17:00
　※日本時間
(3)結果通知
　申請後、1ヶ月以内にメールにて結果を通知いたします。
(4)その他
　資格認定は『帰国生入学試験』と『Ⅰ選抜』の両方に適用されます。

帰国生入学試験

■募集概要

募集定員	男子：約15名　女子：約10名
出願期間	2025年1月11日(土)～1月25日(土)［消印有効］
試験日	2月 9日(日) 国語・数学・英語（各50分）
合格者発表	2月12日(水)
学費等納入締切	2月17日(月)
入学手続申請締切日	2月17日(月) 16:00
書類等作成・提出締切日	3月 5日(水)

※詳細は入学試験要項をご確認ください。

■入学検定料

30,000円

■出願に必要な書類

(1)調査書・成績を証明する書類
　海外の学校（日本人学校を除く）に在学したことがある場合は、その期間の成績を証明する書類（TRANSCRIPT、REPORT CARD等）を保管しておいてください。詳細は、出願資格の認定通知の際にお知らせします。
(2)出願資格認定通知書
　※『Ⅰ選抜』と併願する場合は、(1)～(2)の書類の提出は不要です。

■入学試験場

早稲田大学早稲田キャンパス（東京都新宿区）

■試験

国語・数学・英語の試験問題は、一般入試と同じです。選考は一般入試と別で行います。

■選考

合否は試験の結果と出願書類（調査書等）を踏まえ、総合的に判断します。

Ⅰ選抜（帰国生自己推薦入学試験）

帰国生のための自己推薦入学試験制度です（『Ⅰ選抜』の“Ⅰ”は“International”の頭文字です）。日頃の学業成績と英語力、基礎学力試験および面接の結果を総合的に評価して選抜する入学試験です。

■募集概要

募集定員	男女：約20名
出願期間	2024年12月18日(水)～2025年1月5日(日)［必着］
第1次(書類選考)合格者発表	1月15日(水)
第2次(基礎学力試験・面接)選考	1月23日(木)基礎学力試験(数学・国語、各30分)・面接
第2次合格者発表	1月25日(土)
学費等納入締切	1月29日(水)
入学手続申請締切日	1月29日(水) 16:00
書類等作成・提出締切日	3月 5日(水)

※詳細は入学試験要項をご確認ください。

■出願資格

本学院を第一志望とし、合格した場合は入学を確約できる者。

■入学検定料

第1次（書類）選考：10,000円
第2次（基礎学力試験・面接）選考：20,000円

■出願に必要な書類

(1)調査書・成績を証明する書類
　海外の学校（日本人学校を除く）に在学したことがある場合は、その期間の成績を証明する書類（TRANSCRIPT、REPORT CARD等）を保管しておいてください。詳細は、出願資格の認定通知の際にお知らせします。
(2)帰国生海外生活調査書（『入学試験要項』にあります）
(3)帰国生出願資格認定通知書
(4)志望理由書
　日本語による本人自筆のものとする。
(5)英語力を証明するもの（次の(a)～(c)いずれかの写し）
　(a)TOEFL iBTの成績表
　　※2022年11月～2024年11月受験までの『成績表』が対象。
　　※TOEFL iBT Home Edition、TOEFL iBT Paper Editionは対象外とする。
　(b)TOEIC Listening & Reading Testの成績表
　　※2022年11月～2024年11月受験までの『成績表』が対象。
　(c)実用英語技能検定（英検）の合格証書
　　※『合格証書』が出願時に間に合わない場合に限り『二次合否通知・分野別得点票』でも可。
　(d)IELTSの成績証明書
　　※2022年11月～2024年11月受験までの『成績証明書』が対象。
　　※発行機関から本学院への直送ではなく、他の書類と共に受験者が提出してください。

■第2次選考会場

早稲田大学本庄高等学院（埼玉県本庄市）

2026年度入学以降の募集定員については以下に変更の予定です。
■一般入試:男子約95名、女子約95名　■α選抜:男子約30名、女子約30名
■帰国生:男子約10名、女子約10名　■Ⅰ選抜:男女約20名

授業料・奨学金について

授業料について

■入学金・学費等[2024年度実績]　（単位:円）

	1年		2年		3年	
	入学時	第2期	第1期	第2期	第1期	第2期
入学金	260,000					
授業料	342,000	342,000	366,000	366,000	384,000	384,000
教育環境整備費	114,000	114,000	114,000	114,000	114,000	114,000
実験実習料	5,500	5,500	5,500	5,500	5,500	5,500
生徒会費	10,000		10,000		10,000	
日本スポーツ振興センター共済掛金	1,500		1,500		1,500	
生徒共済費	5,000		5,000		5,000	
合計	738,000	461,500	502,000	485,500	520,000	503,500

※2025年度の入学金・学費等については10月公開の入学試験要項を確認してください。

奨学金について

本学院には主に下表のような奨学金制度があります。また、この他に地方公共団体が運営する奨学金等が、生徒の就学をサポートしています。

■奨学金[2024年度]

種別		金額	募集人員	募集時期	
大隈記念奨学金		200,000円(給付)	2･3年生各4名	4月	成績優秀者
小野梓記念奨学金		300,000円(給付)	9名	2･3年生4月 1年生9月	経済的に就学困難な者
早稲田大学生協給付奨学金		300,000円(給付)	1名	9月	
校友会給付奨学金		300,000円(給付)	4名	9月	
本庄高等学院奨学金※1		200,000円(給付)	若干名	9月	
早稲田カード奨学金		300,000円(給付)	3名	9月	
埼玉県高等学校等奨学金	入学一時金	250,000円以内(貸与)	有資格者	4月	保護者埼玉県在住※2
	月額奨学金	40,000円以内(貸与)			

種別、金額および募集人員等は変更されることもあるので、詳細は募集案内にて確認してください。

※1.教職員・父母・一般篤志家からの寄付により設立されました。※2.貸与額等は異なりますが、各都道府県に同様の制度があります。

出願方法・入学試験要項について

◆出願方法

出願の流れは以下の通りです。
①WEB出願システムでの登録と検定料納入後、受験票・宛名票を出力します。
② 宛名票を封筒に貼り付け、出願書類を本学院に送付します。
※WEB出願システム登録および検定料納入後、書類を所定の期日までに提出することで出願完了となります。提出書類、期日などは入学試験要項をご確認ください。

◆入学試験要項

入学試験要項は本学院WEBサイトで公開します（10月予定）。紙媒体での配布はおこないません。出願に必要な書類（調査書等）はご自身でダウンロード・印刷をしてください。